



全国小学校キャリア教育研究協議会通信 vol.12
キャリア教育を通じた「つながり」から子どもと社会を結ぶ
発行/編集：全国小学校キャリア教育研究協議会 2019.1.11

【1】ご挨拶

2019年が始まり、子どもたちのにぎやかな声が、また、学校に戻ってきました。テレビや新聞では平成最後の年ということで、平成の様々な出来事の振り返りやランキングがにぎやかに報道され、新元号の予想等がかまびすしく感じられますが、本研究協議会にとっては、やはり、全国組織の発足・第1回大会の開催が最も大きな出来事であり、それを通して多くの方々と出会い、交流させていただけたことに感謝する平成の締めくくりでありました。今年1年、そして新元号となるこれからは、皆様にとって実り豊かで学び合える日々になりますことを祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。これからもよろしくお願いいたします。

今回の通信では、京都での研究発表会の案内、京都大会の報告、キャリア教育の考え方とも通じるカウンセリングの話などを載せさせていただきます。

【2】これから行われる京都での研究発表会のお知らせ

昨年の12月の全国大会に参加したかったのだけれども、残念ながら都合がつかなかった。でも、やっぱり京都のキャリア教育の研究発表会に参加してみたいという方に朗報です。これから京都で予定されているキャリア教育関連の発表会をお知らせします。

1月28日（金）京都市立春日丘中学校研究発表会 8学級公開授業・講演
「あたたかな心を持ちながら、地域に貢献できる生徒を育成する特別活動」
講演『特別活動を要としたキャリア教育』 長田 徹 先生

<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=206808>

2月 1日（金）京都市立新町小学校研究発表会 7学級公開授業・事後研究会
「社会的自立を目指す子どもの育成」
※京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会副会長校

<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=102001>

2月 1日（金）京都市立七条第三小学校研究発表会 6学級公開授業・講演
「自分と人・社会・自然のつながりをとらえ、ともに楽しく問題解決に向かう子」
講演「夢を追う力」陸上競技選手 早狩実紀 氏
※京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会副会長校

【3】 京都大会ご報告 2日目午前 京都市立岩倉北小学校

京都大会2日目は京都市立岩倉北小学校で行われました。幕末から明治に活躍した岩倉具視ゆかりの地として有名な場所です。午前中は、開会セレモニー、京都市の研究報告、長田徹先生の講演、全学級公開授業が行われました。開会セレモニーでは、京都市の小学校、中学校、高校の校長会役員の方、京都教育大学の教授にお越しいただき、小中高大とつながるキャリア教育の縦のつながりの大切さを再確認し、京都市総合教育センター所長の佐藤卓也先生より来賓代表のご挨拶をいただきました。

長田先生の御講演では、新指導要領の中でいかにキャリア教育が大切かということ、キャリアパスポートはじめ、縦のつながりを大切にした取組の実践紹介等を役割交流を交えながら楽しく、中身の濃いお話を伺いました。以下いくつか参加者の感想を引用させていただきます。

- ・「つなぐ、つなげる」という観点で、とてもわかりやすく聞かせてもらいました。全国各地の実践を聞く中で、キャリア教育を柱として、どのように教育活動を行っていくべきか分かってきました。各教科の横のつながりや、学年・小中校を超えた縦のつながりを特に意識していきたいです。
- ・わかりやすい説明と辞令の提示で素晴らしかったです。学校でも取り組みたい、取り組まなければならないと思われました。その根拠がはっきりしていて、わかりやすく納得できました。わたしは「B」の役だったので一生懸命考える立場が多かったですが、そこも楽しかったです。
- ・長田調査官のお話は、ねらいと具体的場面をつなぎながら活動も交えてお話くださるので非常にわかりやすかったです。日本の児童生徒の課題もはっきりと見せていただき、キャリア教育の必要性を実感させていただきました。

【4】 京都大会ご報告 2日目午後 京都市立岩倉北小学校

2日目の午後は、課題別分科会とシンポジウムが行われました。

◎課題別分科会

第1分科会「自らの生き方を見つめ、本質的な問いを求める指導方法の改善」

京都市立岩倉北小学校 根津 亮介先生

最初に、岩倉北小学校の根津教諭から提案があり、その後、授業についての話がありました。岩倉北小学校の取組や授業のコンセプトなど大変分かりやすかったです。

また、フロアから「授業におけるキャリア教育の視点は何か?」「岩倉北小学校の考える基礎的汎用的能力とは?」などたくさんの質問がありました。「教科授業の中で進

めるキャリア教育」ということに関心がある方が多かったです。総合や学活で特別に行うのではない、日々の授業を子どもたちのキャリアとして積み重ねていくことの重要性を再認識できました。

第2分科会「自らの生き方を探究する総合的な学習の時間の展開」

兵庫県加古川市氷丘南小学校 伊藤 良介 先生

総合的な学習の時間を使って、生き方を探究するという取組について提案されました。人とのつながりを大切にしている取組、子どもたちが主体的に学習することができていることが良かった。児童と話し合い、良さや課題を挙げてゼロからの目標設定・年間計画作成について、主体性を大切にしながらも、最終的に「身に付けさせたい力」を付ける取組であった。そのための教師の手立てや準備も必要。1年生からの積み上げや他教科との関連、指導の系統性は大切にしなければならない。等の意見がだされました。

第3分科会 「キャリア教育におけるカリキュラムマネジメント」

東京都世田谷区立尾山台小学校 関根 史朗 先生

「年間指導計画」や「キャリアパスポート」「PDCAサイクルによる教育活動の見直し」など、具体的に示しながら、「キャリア教育におけるカリキュラムマネジメントについて」のご提案をいただきました。その後、9つのグループより各校の取組や意見を交流しました。幼・小・中の連携や教育委員会との連携が大切だという意見が出ました。

指導講評では東京都板橋区立中台小学校長海藤美鈴先生より、キャリア教育の評価について、座席票を活用する方法やハイパーQ Uの活用などを教えていただきました。全国、地域によって捉え方や現状が違い、キャリア教育がこれからさらに大切になってくると感じ、今後も研鑽を積んでいきたいと思いました。

第4分科会 「地域、学校に誇りをもち、協働して自ら未来を切り拓く佐布里っ子の育成」

愛知県知多市立佐布里小学校 荒尾 敏雄 先生

地域教材を生かしたキャリア教育の提案をしていただきました。佐布里小では、地域・学校の特色や育てたい資質・能力を5つのワードを整理してまとめ、指導案の中にもキャリア教育の視点も取り込み、取組を進めているようです。荒尾先生の足で稼いだ、佐布里の財産について写真等で分かりやすく説明していただきました。参観者からは、地域素材を見つけること、どのようにして地域とのつながりを作っていたらよいのかが難しいという話が出ていました。

第5分科会 「キャリアリフレクションを活用したキャリア教育」

京都市立西大路小学校 大西 裕樹 先生

「障害のある児童・生徒の将来を見据えたキャリア教育の必要性」

京都市立東山泉小中学校 足立 悠介 先生

第5分科会は、提案テーマが2つありました。どちらの提案もカリキュラムマネジメントを意識し、育てたい子ども像を明確にして実践されたものであることがよく伝わってきました。また、意見交流では、小グループで活発な交流が行われ予定されていた時間を超過するほどでした。山元先生の指導助言からは、キャリア教育の意義と必要性をご示唆いただきました。

第6分科会 「志 きらめく」を校是とし、キャリア教育を柱とした学校経営」

京都市立下京中学校 三田村高秀 先生

分科会唯一の「中学校からの提案」でした。参加数が心配されましたが、長野県や鹿児島県など他府県からも、また、小学校籍・中学校籍や行政職の方の参加もあり、キャリア教育を通して小中がつながっていくこと、教科担任制の中学校においてもキャリア教育を核とした学校経営の大切さが語られました。業種や校種を超えた情報交換ができとても有意義な分科会であったなどの意見も出て、参加された方々の一人一人の目の輝きが非常に印象的な分科会となりました。これからの「キャリア教育」の更なる発展を予感させるものでした。

※当日司会されていた先生方をお願いして、感想を書かせていただきました。

シンポジウムの様子や全体的な振り返りなど、また、13号でお知らせします。

【5】「あなたが持っているのは風呂敷？それともスーツケース？」

3学期が始まって初めての土曜日、1通のメールが入っていました。25年ほど前の教え子で、現在京都で小学校の教員になって、今は、生徒指導や教育相談・カウンセリングを担当しているセンターに勤めている先生からでした。「林先生、教師生活あと3か月ですね。退職お祝い会を開催するので・・・」という内容でした。とてもうれしいメールだったのですが、丁重にお断りしました。というのは、わたしの退職はあと1年先だったのです。そんな笑い話のメールのやり取りの後、その先生が、自分が書いた文章があるので読んで感想を聞かせてほしいという依頼がありました。

その文章を読んでみると、一人一人の自立を目指すキャリア教育ととても強いつながりを感じたので、要約引用させていただきます。

「あなたが持っているのは風呂敷？それともスーツケース？」

昨今の教育現場では総合育成支援教育（以下、総育・京都での名称）が浸透し、多

くの先生方が総育の視点を取り入れた指導をされていることと思います。そして、在籍学校、学級に関係なく、特性のある子どもたちへの支援が届きやすくなってきていると思います。その反面、少し特性があるだけで「発達障害だ！」などトラベルを貼ってしまうことはありませんか？発達の特性は誰にでもあり（～スペクトラムといわれているのもこのためです）、その程度が大きすぎると、社会生活に困りが出てきてしまうのです。人は大なり小なり発達の特性を抱えています。対人援助に関わる私たち（カウンセラーも先生方も）が常時携帯しておきたいと思う、おすすめのものがあります。

それは、風呂敷です。えっ！？風呂敷？どういうことでしょうか？

木村泰子氏（元大阪市立小学校校長）は、著書『「みんなの学校」が教えてくれたこと』の中で、この風呂敷論を述べています。布ですから、さまざまなデコボコのある、つまり特性のある子どもたちが、優しく、もれなく包み込むことができる風呂敷があれば、どの子も受け入れられ、同じ場にいることができます。けれども、スーツケースのように堅いものならどうでしょう。棒のような形なので、端をポキッと折らないと入れない子、ボールのような形なので、蓋が閉まらない子が出てきます。スーツケースに入らない子を「発達障害だ！」と言って排除しようとするのではなく、子どもたちの周囲にいる私たち大人が、まず風呂敷を持つことで、様々な形の子どもたちを大きく包み込むことができれば、特性の有無や程度に関わらず同じ学校という社会で生活することができるのではないかと思います。

これは、発達の特性に関わらず、成育歴や家庭環境など様々な背景をもつ子どもも含め、すべての子ども一人一人を大切にすることに繋がりますし、私たち大人の姿を見て、次は子どもたちが大きな風呂敷をもつ人に成長していくことに繋がります。子どもは大人の背中を見て育つといいます。保護者の背中と同じくらい、先生方の背中も見ています。そのような先生方の考えや行動が、社会全体がひとりひとりの違いを認め合うことに繋がっていくのではないのでしょうか。

風呂敷のように柔らかな態度をもつことで、子ども一人一人に寄り添うこと、子どもを一旦そのまま受け入れること（認めることとは異なります）、ありのままを受け入れた上で“なぜ？”と心を砕くことができるのではないのでしょうか？きまりやルールというスーツケースももちろん必要ですが、その時の状況や子どもの様子に合わせて、風呂敷が出せるようになると、救われる子どもたちが増えるのではないかなと思います。

スーツケースだけでなく、風呂敷との二個持ちをしてみたいはいかがでしょうか。

感想をお送りいただくと、教え子が喜びます。よろしくお願ひします。

【6】京都大会での出会いをもとに 三重県名張市より

本大会にご参加いただいていた先生より、大会を終えて以下のようなうれしい依頼メールが入りました。自校でもキャリア教育に取り組みたいので、京都からどなたか、研修講師に来ていただけないかという依頼でした。大変忙しい学校現場ですが、このような依頼には何としてでも応えていきますので、遠慮せず、お声掛けください。

寒さ厳しき折、ご健勝のことと存じます。

過日の全国キャリア教育研究協議会京都大会のご盛況に感服しますとともに、多くの学びをいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、本校におきましても「キャリア教育」をすすめていきたいと考えておりますが、まず何かからどう取りかかればよいか、まさに暗中模索の状態であります。かと言って大実践家や大学教授のお話では敷居があまりに高く尻込みをしてしまう恐れがあります。つきましては、大変厚かましく、また失礼なお願いではありますが、先生から「校内研修会」の講師として適任者をご紹介いただきたくお願いする次第です。さらに厚かましいお願いですが、予算不如意の折でもあり、京都市内の先生に交通費程度しか出せない状況ですので、その点もご配慮いただければ幸いです。

ご考慮いただくにあたり、以下のような概略を加えさせていただきます。

(以下、学校所在地や学校規模等の記載 省略)

以上、お忙しい時期にもかかわらず、勝手なお願いばかりですが、よろしく願いいたします。

※大会を通して、このようなキャリア教育の輪が広がることをとてもうれしく思っています。今後ともよろしく申し上げます。

【7】実践発表募集

今大会では、分科会発表、シンポジウム発表を通して、日本の様々な地域の実践をお伝えすることができました。現在キャリア教育に取り組んでおられる方、来年からやってみようと思っておられる方、様々な取組をぜひ発表してみてください。来年度行う東京大会のプログラムはまだ決まっていますが、発表したい、この情報メールで紹介しても良い等、ぜひおたよりをお寄せください。皆様の御意見や実践等をご紹介させていただきます。全国大会を通したつながりが、各地域の子どもたちの成長、学びに少しでも役立つことを願っています。

【8】編集後記

通信12号では、主に、京都大会2日目の様子をお知らせしました。

今年は暖冬とはいえ、寒さ厳しい毎日。インフルエンザや感染性胃腸炎等が流行し、学級閉鎖のお知らせが入ってきています。みなさま、くれぐれも体調を崩されませんように。今回もお読みいただきありがとうございます。

お忙しいとは思いますが、ご感想をいただければ励みになります。ぜひ、ご感想や各地の様子をお知らせください。

発行：全国小学校キャリア教育研究協議会

編集：林 久徳（全国小学校キャリア教育研究協議会

京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会会長）

研究会URL：<https://portal.kyotocity.ed.jp/taxonomy/term/85>

会長校：京都市立静原小学校

住所：〒601-1121 京都市左京区静市静原町1125-1

連絡先：TEL:075-741-2075 FAX:075-741-2094

事務局：京都市立岩倉北小学校

住 所：〒606-0021 京都市左京区岩倉忠在地町5

連絡先：TEL.075-721-5618

事務局長：三浦清孝